

3

熱中症になってしまったら 熱中症 E A P (Emergency Action Plan)

熱中症を疑う症状

- 重症度Ⅰ度** * 手足のしびれ * めまい、立ちくらみ
* 筋肉のこむら返り（痛み） * 気分が悪い、ボーとする
- 重症度Ⅱ度** * 頭痛 * 吐き気・嘔吐 * 倦怠感 * 意識が普通でない
- 重症度Ⅲ度** * 意識消失 * けいれん * 呼びかけに対して反応がおかしい
* まっすぐに歩けない・走れない

チェック✓

意識障害の有無

あり

救急隊を要請

なし

- * 意識消失
* 意識がもうろうとしている
* 応答が鈍い
* 言動が不自然等、
少しでも意識がおかしい場合。

チェック✓

涼しい場所への避難

自力で水分摂取可能か

できる

水分・塩分の補給

症状改善の有無

改善

経過観察

☆連絡・連携先

- * 校長等管理職
- * 養護教諭・学級担任
- * 保護者

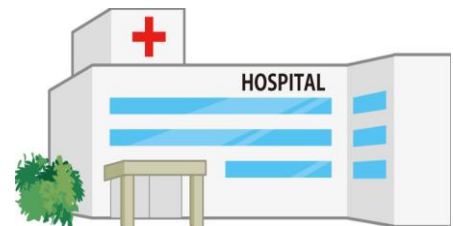
☆役割分担

- * A E D
- * 他の教職員への応援
- * 記録（気温・湿度・時間等）
- * 救急隊の誘導

涼しい場所への避難 脱衣と冷却

衣服をゆるめ、
氷・アイスパック・
扇風機等で冷却

医療機関へ搬送



できない

改善しない

◎ポイント

- 連絡先の電話番号を記したラミネート加工の対応フロー図を作成し、各活動場所に常設することにより、熱中症発生時の的確で迅速な対応に役立ちます。
- 携帯電話、スマートフォンによる連絡履歴は、救急隊の要請時間など事故対応時の客観的記録となります。
※ 緊急時の対応を考慮し、可能であれば、指導者は活動場所にて携帯電話・スマートフォンを携帯しておくことにより、より迅速な救急隊の要請と正確な時間の記録保存等に役立ちます。

